平成 23 年 10 月 3 日

■江田島　秋のフィールドワーク（ビオトープ技術研修）

報告者：中・四国地区委員長　竹信正敏

10 月 1 日(土曜日)、江田島市古鷹山ビオトープにおいて、中四国国地区主催の「秋のフィールドワーク」を開催しました。

今回は、春におこなった、トンボや水生昆虫中心の生物調査の第二弾として、当ビオトープで生育する植生調査を中心におこなった。　植生調査は、ビオトープアドバイザーの野村公平さんと中川暢人さんの指導で植生調査の基本的な方法や同定のポイントなどについて実践的な技術を体験した。また、午後は広範囲に侵入し繁茂が懸念されるオオカナダモ、キシュウスズメなど外来種の除去作業をおこなった。

このたびは、皆さんへの連絡が遅れたこともあり、参加者は 11 名であったが、秋を感じさせる山間の風を受けながらのフィールドワークを堪能し技術研修を閉じました。

・技術研修として、植生調査の内容や方法などについて、ビオトープアドバイザーの野村公平（総合技研）さんからレクチャーを受ける参加者の皆さん。

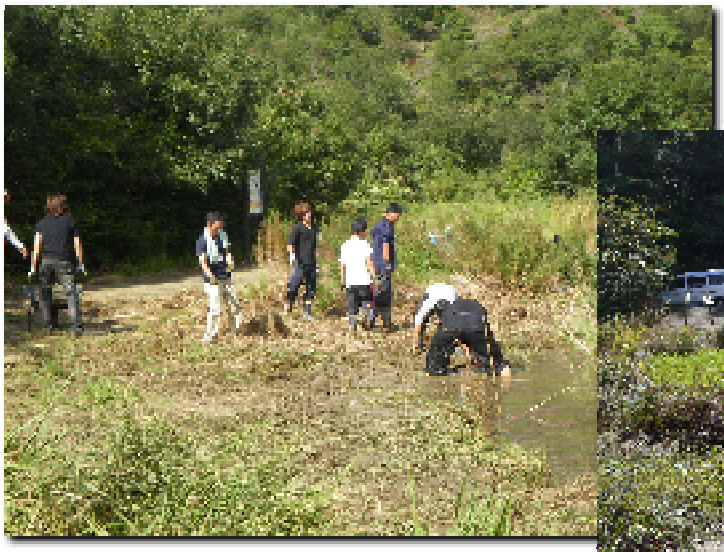
●フィールドワークの様子（植生調査）

植生調査では、班に分かれて、ビオトープフィールド内に設置した、１ｍ×１ｍのコドラードの植生を調べ、植物図鑑による種の見分け方、写真撮影による記録の仕方などデータ整理の方法などについて学んだ。

（維持管理作業）

写真－1

写真－2



写真－3

写真－4

維持管理作業は先ず外来種の侵入による影響や同定などについてレクチャー（写真－1）を受け、繁茂の著しい、オオカナダモ（写真―2)、キシュウスズメノヒエ（写真－3）の除去作業をおこなった。

最後に、「ふりかえり」として、生物多様性への取り組みとして体験した 1 日を参加者全員が感想や思いなど、意見交換をおこないフィールドワークを閉じた。